

職員による自己評価

保護者による評価

A業務改善 できているという評価87.6%

- ・改善に向けた検討や具体的な取り組み(休憩時間の確保など)をPDCAサイクルにそって検討する形ができてきたが、まだ検討すべき課題は残っている
- ・研修は学びの機会となっているが、内容や実施時期など経験値なども考慮した企画が必要

B適切な支援の提供 できているという評価97.7%

- ・新たに物品を購入したり、児童が興味をもっているキャラクターを活動に取り入れたりして工夫をしながらプログラムを実施している
- ・限られた時間の中で会議やバス添乗があっても担任間で情報共有や運営検討ができるように記録やミーティングの持ち方を工夫している
- ・児童発達支援管理責任者とクラスの情報を共有したり相談したりして運営できている

C関係機関との連携 できているという評価92.0%

- ・より安全に療育ができるように医療情報を保護者とセンターで共有し、対応するための書類が整った
- ・関係機関との連携の仕方についてより柔軟な方法の検討が必要

D保護者への説明責任・信頼関係

できているという評価95.4%

- ・親子日の目的や参観してほしいポイントなどを書面にして説明するように工夫している
- ・日本語が母国語でない方に対し、通訳を導入しているが引き続き保護者のニーズに合わせた対応の検討が必要
- ・父母の会が休止したことにより、保護者の意見をききとる場が減り、十分な吸い上げができていない
- ・保護者同士の交流の方法について検討の余地がある
- ・マチコミの活用など、情報提供の仕方を工夫した

E非常時の対応 できているという評価94.1%

- ・マニュアルはあるが、職場全体で確認する場や研修が必要
- ・インシデントやアクシデント発生の原因分析を実施し、再発防止の取り組みを進めている

A適切な支援の提供 できているという評価96.2%

- ・個別支援計画に沿って支援を行い、児童に合わせたプログラムの提案や工夫をしているのご意見が多かった。一方で、教材の種類や幅を広げて欲しいなど内容への要望やプログラムの充実を希望するご意見もある

B保護者への説明等 できているという評価88.9%

- ・様々な相談にのってもらえているというご意見の一方で、質問への回答がないことやアドバイスがもらえないのご意見もある
- ・単独メモや面談で情報共有や相談ができているというご意見があるという一方で、それ以外の場では担任とゆっくり話ができる時間が少ないというご意見がある
- ・支援内容について丁寧な説明をうけているというご意見が多い
- ・親子日がまとまったこともあり、休憩時間がクラス内の交流になっているのご意見もあるが、クラスだけでなく、先輩保護者と話す場など、積極的な交流の場や情報共有の場を設定してほしいのご意見がある
- ・親子日の変更など、通園からの情報提供のタイミングが遅いことがあるのご指摘がある

C非常時の対応 できているという評価82.0%

- ・各マニュアルについて周知が不十分であると感じている保護者が多い

D満足度 できているという評価93.5%

- ・お子さんが安心して楽しく通っているとの意見が多い
- ・手厚くサポートしてもらっているという意見がある一方で、自由時間の長さなど、クラス運営の工夫を求めめるご意見があがっている

事業所内での分析

【共通点】

- ・職員は相談にのったり説明をする際に、書面の活用など、丁寧な対応を心掛けている。保護者も様々な相談にのってもらえていると感じている方が多い
- ・保護者同士の交流、情報収集の場を求める声があり、職員も交流の場の充実や保護者の意見の聞き取り方に工夫が必要と感じている
- ・災害、防犯時の対応マニュアルはあるが、周知が不十分である

【相違点】

- ・職員は活動を工夫しながら提供していると思っても、保護者から工夫の足りなさについてご意見がある
- ・保護者から相談にのってはもらえているが、時間の足りなさや機会の少なさのご指摘がある
- ・マチコミの活用など、タイムリーな情報提供を心がけているが、タイミングが遅いのご意見がある

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・個別支援計画書について定期的に保護者に説明し、支援計画に沿って支援を実行できている
- ・限られた時間の中でクラスミーティングの時間を確保したり、児童発達支援管理責任者とクラスの情報共有、相談、プログラムの検討等を行い、よりよいクラス運営となるように努めている
- ・よりよい支援や労働環境を求めて、PDCA サイクルで検討することが定着しつつある
- ・より安全に療育が提供できるための医療情報収集や対応の確認について、施設と保護者で同意を得て行う仕組みが整った

事業所の改善点

- ・児童発達支援管理者だけでなく、他職種と連携を図りながら、クラスの活動や個別の取り組みについて、よりよい支援の実現に向けて努める必要がある
- ・実施している支援について、保護者の同意を得られるように、説明の機会、説明の仕方について継続的に検討が必要である
- ・引き続き、日本語を母国語としない方とのコミュニケーションの拡充について検討が必要である
- ・関係機関と共に家庭支援を行うための連携を柔軟に行えるように連絡方法ややり方について検討が必要である
- ・人材育成のための研修を計画的に実施していく必要がある
- ・防犯・緊急時対応マニュアルについて、周知方法に検討が必要である

事業所の改善への取り組み

<2023年度の取り組みとしてあげたこと>

- ①新型コロナウイルス感染防止対策の動向をみながら、センターが安全に持続的な運営ができる対策を講じ、コロナ禍前にできていたこと、新たな形に変えてできることを具体化していきます
- ②センターの人材育成に沿って、通園職員の具体的な研修機会を設定していき、療育の質の向上に努めていきます
- ③保護者勉強会だけでなく、様々な情報発信について、オンラインやホームページの活用を検討します
- ④新たな療育センターのあり方、働き方改革を踏まえて、業務の見直しや整理をしていきます

➡具体的な取り組み

- ①親子日を分散を止めてクラス毎に設定し、保護者同士の交流促進や情報交換がしやすいようにしました。また、児童にとっても親子日と単独日が明確になることで、見通しを立てて登園できるようにコロナ禍前の形に戻しました。共有を避けるなどの感染防止対策を講じながら制限していた活動なども再開しました
- ②数日研修日を設定し、療育知識、技術の向上のための講習やグループワークを実施しました。また、職員向けのオンライン研修を取り入れ、学びの機会を広げています。また、定期的に児童発達支援管理責任者や他職種がクラスに入り、児童の対応やクラス運営について相談、指導を行っています
- ③勉強会や保護者の方への情報発信は、オンラインやアーカイブ配信の活用を継続しています。また、マチコミによるおたよりの配信など、保護者の方に同時に情報がいくようにしました。通園の利用申込など、-googleフォームを導入し、ご来所でのお手続き以外の手段を広げました
- ④2024年度より別施設で一次支援事業を開始いたします

<2024年度の取り組み>

- ・療育の質の向上に繋がるように、計画的に研修（講習、OJT、外部研修など）を企画し、実施していきます
- ・療育の目的や個別に行っている支援について、保護者と職員が共通認識をもって実践できるように説明の方法、説明の機会の確保について検討していきます
- ・有事に備え、防犯、災害時の行動について、通園職員だけでなく、保護者の方に伝えるマニュアル作りに着手します

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

2023年度は新型コロナウイルスが5類に変わり、世の中の人の動きも随分活発になりました。通園もクラス毎の親子日を再開するなど、感染対策の緩和を検討しながら運営してまいりました。しかしながら秋以降、アデノウイルス、インフルエンザの流行、減少してきているとはいえ依然報告の絶えないコロナウイルス感染もあり、これまで同様の登園基準をお願いし、ご不便をおかけしました。通園運営継続のためにご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

次年度は父母会が休止となりました。ご家族同士の交流や情報交換の場をクラス以外でどう作っていくか、新たな方法を検討し、実践できるようにしていきたいと思っております。

今回も事業所自己評価、満足度アンケートにたくさんのご意見をいただきました。支援の内容について前向きなご意見を多くいただき、職員の日々の励みとなっております。療育センターだけでなく、民間の児童発達支援事業所が多く『療育』を行うようになった今、ご利用されている皆様にとって通園が有意義で安心できる場になっているか、今後も検証と検討を続け、よりよい療育を目指してまいります。

事業所名 地域療育センターあおば

担当者 小林 濃里子